

宮城県経済の動き

総括判断

最近の県内景況をみると、経済活動は総じて高めの水準で推移しているものの、震災復興需要の反動などから回復の動きが鈍化している。

概況

生産は弱い動きとなっている。需要面の動きをみると、公共投資は高水準であるが、震災復旧工事を中心に減少基調となっている。住宅投資はなお高めの水準ながら、震災に伴う建替需要の反動などにより基調としては減少している。個人消費は消費税率引上げに伴う振れがあるものの、総じて横ばい圏内で推移している。雇用情勢は改善に足踏みがうかがわれる一方、需給のミスマッチなどから一部では人手不足が企業経営の重しとなっている。

今月のポイント

台風19号の被災や記録的な不漁、製造業の停滞など逆風続きの県内経済ですが、消費税率引上げ後の物価動向が生活必需品などを中心に比較的安定していることや台風被害に関連する復興需要などにも支えられて個人消費に大きな落ち込みがみられないほか、建設投資がなお相応の水準で推移するなど底堅さもみられます。しかし、生産や雇用の改善が遅れて設備投資も低調な状況が続き県内景気は踊り場にさしかかりつつあり、海外経済の回復や次世代通信関連の需要増加などが待ちどおしい状況となっています。

(田口 庸友)

(参考)県内景況判断の推移

	2019年11月	12月	2020年1月
総括判断	経済活動は総じて高めの水準で推移しているものの、震災復興需要の反動などから回復の動きが鈍化している (据え置き)	経済活動は総じて高めの水準で推移しているものの、震災復興需要の反動などから回復の動きが鈍化している (据え置き)	経済活動は総じて高めの水準で推移しているものの、震災復興需要の反動などから回復の動きが鈍化している (据え置き)
生産	足元弱含んでいる	足元弱含んでいる	弱い動きとなっている
公共投資	高水準であるが、震災復旧工事を中心に減少基調となっている	高水準であるが、震災復旧工事を中心に減少基調となっている	高水準であるが、震災復旧工事を中心に減少基調となっている
住宅投資	なお高めの水準ながら、建替需要の反動などにより基調としては減少している	なお高めの水準ながら、建替需要の反動などにより基調としては減少している	なお高めの水準ながら、建替需要の反動などにより基調としては減少している
個人消費	消費税率引上げに伴う振れがあるものの、総じて横ばい圏内で推移している	消費税率引上げに伴う振れがあるものの、総じて横ばい圏内で推移している	消費税率引上げに伴う振れがあるものの、総じて横ばい圏内で推移している
雇用情勢	改善に足踏みがうかがわれる一方、需給のミスマッチなどから一部では人手不足が企業経営の重しとなっている	改善に足踏みがうかがわれる一方、需給のミスマッチなどから一部では人手不足が企業経営の重しとなっている	改善に足踏みがうかがわれる一方、需給のミスマッチなどから一部では人手不足が企業経営の重しとなっている
企業の景況感	(2019年1~3月) 総じて弱めの動きとなっている	(4~6月) 総じて停滞している	(7~9月) 総じて停滞している

注)下線は前月(回)からの変更箇所